

血液がん 医療講演会・交流会 報告



[リボンの会のホームページ・トップ](#) > [リボンの会とは](#) > [活動報告](#)

開催日時: 2015年9月19日 (土)
開催場所: 浜の町病院 研修講堂

プログラム

- ✂ 講演: 「ハプロ移植 (HLA半合致移植) 及び新薬と今後の動向」
衛藤徹也先生 (浜の町病院血液内科)
- ✂ 質疑応答
- ✂ 交流会、個別相談会



今回は年に一回の医療講演会を開催しました。

衛藤先生に新しい移植治療法と今後考えられる薬についてのお話をさせていただきました。難しい内容の話でしたが、医学の進歩に期待したいと思える内容でした。その後、質疑応答、グループ別交流会と個別相談を行いました。

【 講話: ハプロ移植 (HLA半合致移植) 及び新薬 と 今後の動向 】

—ハプロ移植—

ハプロ移植とは造血幹細胞移植 (一般に骨髄移植、末梢血幹細胞移植という) をする際に、ドナーと患者との間で適合しなければならない白血球の型であるHLAが半分一致しているドナーからの移植を言います。移植する場合はHLAを調べ通常は全一致 (フルマッチ) または1座不一致で実施しますが、適合格率は兄弟で四分の一、他人の場合は数百から数万分の一の確率となり、ドナー候補を見つけるのが難しいという課題があります。でも、半合致であれば、親は100%、兄弟はもちろん、おじ、おばでもドナーとなることができます。ただ、生着不全 (移植した細胞が



➔ 患者の体に取り入れられない)や強烈なGVHD(移植片対宿主病・ドナーの免疫細胞が患者の体を攻撃すること)が起こる可能性があります。そのようなことが起こらないようにして造血幹細胞移植を行う研究的治療が現在進められています。

今のところ、再発・難治性及び血縁・非血縁・臍帯血でのドナーが見つけれない場合に行われているそうです。



—新薬及び今後の動向—

近年はがん細胞のみにピンポイントで攻撃を仕掛ける「分子標的薬」が開発されています。最近はまだ一つの治療法として、がんそのものを攻撃するのではなく、ヒトが本来持っている免疫機能を利用してがん細胞を攻撃する治療法が研究されているそうです。実用化には時間がかかるでしょうが、様々な分野で研究が進んでいて、現在治療法がないと思われるような血液の病気にも将来は治療法が見つかるのではないかと希望が持てる時代が近くまで来ているそうです。

講演内容は、難しかったと思いますが、先生は細かな理解より、とても進歩していったんだなというのを肌で感じられたらいいかなって思いながらお話を下さったそうです。

【質疑応答】

あらかじめ配布した質問用紙で質問を受け、衛藤先生に回答していただきました。多岐にわたる質問に丁寧に答えていただきありがとうございました。



【交流会】

少ない人数で色々と話していただきたいと、5つのグループを作りました。それぞれにスタッフが2名ほど進行係で入り、1時間じっくりお話ができました。

現在入院中の患者さんや治療中の患者さんは、経験者から生活のことなど身近な話が聞けたようです。これからの治療を控えている患者さんは、様々な不安を話し、経験者からアドバイスがもらえたようです。家族のグループはそれぞれの不安や悩みを色々と話すことができましたようです。

患者さん、ご家族の皆さんの抱えている悩みや不安はすぐには解決できるようなものではないでしょう。でもリボンの会に来て「話す」「同じような経験の仲間の話を聞く」ことで、「ひとりではない」と思っただけならと願っています。次回の交流会もお待ちしています。



リボンの会 事務局本部

公式サイトURL: <http://ribonnokai.info/>

E-mail: <http://ribonnokai.info/mail.html>